

杉野嘉男

今日私は、明治、大正、昭和そして平成と、激動の武道界に生きた武人、杉野嘉男の生涯についてお話したいと思います。杉野嘉男は柔道、合気道、そして日本古武道の一つである香取神道流、それぞれの師範として活躍した、伝説的な武道家です。私は10年前から、この香取神道流の稽古に取り組んでいるのですが、その間、師匠から、この杉野嘉男のことについて、折に触れいろいろ聞いたこともあり、だんだんと、この人物に興味を持つようになりました。

香取神道流というのは、千葉県が無形文化財に指定されている天真正傳香取神道流のことです。これには剣術だけではなく、薙刀や棒、槍までもが含まれており、日本武道の原点と言われていています。

さて、杉野嘉男は、明治37年、千葉県に生まれました。大正7年に慶応商工部、これは今の慶応中等部にあたる学校ですが、そこに入学し、柔道を習い始めます。大正11年には、講道館に入門し、嘉納治五郎の内弟子となりました。杉野は体こそ小さかったものの、まだ茶帯の時から試合に負けたことがなく、まわりの人たちから不思議がられるほどの存在でした。そして昭和2年、杉野は22歳にして、川崎で講道館柔道の道場を開設しました。

ところで、杉野の師匠であった嘉納治五郎は、合気道の創始者、植芝盛平の演武を初めて見たとき、「これこそが真の柔道である」と言ったといわれています。その影響で、杉野もまた、昭和5年、植芝盛平に合気道の教えを乞うことになりました。

翌年、杉野は25歳にして、天真正傳香取神道流の門をたたきます。これもまた、嘉納の影響によるものでした。そして、昭和10年には、香取神道流の支部道場を開くとともに、植芝盛平からは、合気道の指導者資格を授かりました。さらにこの間、一時は銀行員となり、台湾に赴任するなど、当時の武道家としては、大変異色の経歴の持ち主です。昭和30年ごろからは、あの有名な、七人の侍を初め、隠し砦の三悪人、用心棒など、多くの黒沢映画で剣術指導を行いました。そのあとも、杉野は、日本を代表する武道家として、数多くの弟子を育て、平成10年、93歳で亡くなりました。

今、私が教えを受けている先生方に、「杉野先生の言葉で、心に残っていることはなんですか？」と聞いてみたところ、次のような答えが返ってきました。「自分には厳しくしなさい、人様には優しくしなさい。そしてどんな時でも、挨拶をきちんとできる人でなければならない」という答えが返ってきました。

杉野は、亡くなる直前まで、後進の指導にあたりました。そして、ある日、なんの前触れもなく、亡くなりました。おそらく、すべての教えを弟子に伝え、「もう役目を果たした、後は任せた」とバトンタッチしたのだと思います。室町時代から伝えられてきた天真正傳香取神道流は、杉野嘉男とその弟子たちによって、これからも長く伝えられていくことでしょう。